
阿修羅和讃 「りん和小吉の物語」より

泊瀬光延

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

阿修羅和讃 「りん和小吉の物語」より

【Nコード】

N2489E

【作者名】

泊瀬光延

【あらすじ】

前田慶次郎に仕える小吉こきちの前に現れた少年刺客。その容姿は興福寺の阿修羅像が降臨したかと思えるほどに美しかった。傷ついた阿修羅を天に帰さず地に留めた小吉の心情を『和讃』にしました。短い詩です。

りんと小吉の物語より

山野林梧様よりりんの姿絵を頂きました。そこから生まれた和讃。

拙著「前田記次郎異聞」の冒頭で小吉はりんを瀕死の重傷から救います。

前田慶次を襲って戦い鎖骨を断たれたのです。

小吉は必死に看護します。

その時の小吉の心です。

ここからりんと小吉の物語が始まるのです。

阿修羅和讃

「顔」

かんばせ

文：泊瀬光延

絵：山野林梧（挿絵を見るには↑のURLを参照下さい）

<http://www.ne.jp/asahi/songshang/hatsuse/rinwasan.html>

この世に降臨せし長黒髪の阿修羅王

儂は天に還さずこの地に留めてしまった

少年の消えゆく命を逃したくなかった

儂は自分の命を捧げてやおよろずの神に祈った
儂の命を取ってこの者を助けよと

何故か分からぬ

この者は刺客

我があるじの命を取ろうとした憎き者なのに

戦いに敗れ

血にまみれたこの者を儂は必死に手当していた

この後何が起ころうとも

どうでも良かった

（儂はこの者の為にあるじを裏切った！）

それほど我が心に入り込んだこの阿修羅

癒えればどこへでも去るがよい

また剣を持って我があるじに向かえば

その時はその無慈悲の剣で儂を先に貫くがよい

目覚めた時のその得も言われぬかんばせよ

何故殺さぬと憎しみの涙

賤しき刺客の命なぞ何の価値もないと叫んだ

その心の暗闇よ

お前は知らぬ

そのかんばせに幾つもの表情があることを
泣き笑い怒りそして
限りのない優しさで儂を見る

女性に生まれたなら儂とはきつと会えなかった

少年の姿で生まれし我が菩薩

お前を愛した留蔵の心を儂は引き継ぐ

暗黒の心の闇を切り裂いて

お前を生かす

この戦国の世を

儂の命を賭けて

EOF

（後書き）

本編は「りん和小吉の物語」シリーズでお楽しみ下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2489e/>

阿修羅和讃 「りんと小吉の物語」より

2010年11月8日09時13分発行